

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和4(2022)年  
**6月号**  
通巻622号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和4年6月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)45-1192  
★印刷 大倭印刷  
★定価 1部 300円  
年間購読料3,500円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



京丹後市久美浜町、神谷神社(神谷太刀宮)の磐座 京都府宮津市 藤本宏秋さん撮影(文・8頁)

講演会「紫陽花邑をめぐる日本のユートピア」より(於:東京)

## 紫陽花邑に流れる精神 ② 〈全3回〉

昭和46(1971)年4月25日

法主 矢追日聖(満59歳)

来る者は拒むな

とにかく「街頭でしゃべれ」と霊界人が言うから、日曜日曜、今の大阪駅前に立ちました。昭和21年や22年あたりの大阪は、戦災で家を失った人とか、親に死なれてウロウロしている子とか、刑務所へ入って3、4ヶ月後に出たとか、そんな者が巷にあふれとりました。日焼けして腹がふくれた栄養失調の兵隊さんたちもみな引き揚げてきていた頃です。

それを見た時、日本の国が戦争に負けたのは、スポーツと一緒にね。実力のある者が勝ち、実力のない者は負ける。こんなもんスポーツや。でも、そのせいで大勢がみじめな境遇に置かれている。だから、何か言うてやらないかんのやなど。そう思っています、ま、でたらめなことをしゃべる。すると目の前に、身寄りのない者が近寄ってくる。

さあ、どうしようか……その時に霊界人の仲間が出てきて、私に「連れて帰れ」ってピシッと言うんです。

私は昭和22年に山へ入りまして、壁も畳もないような掘立小屋を建てて、着の身着のまま家族と暮らしておりました。満州が出所の豆カスとか、今で言う肥料です、ね、あんなもんも配給でもらって食ってた時代です、生活そのものがじつに苦しいわけです。

私の家族は6人ですが、それ以外に配給チケットまで売ってすってんてんの、シラミだけ持ってくる者も当時たくさん

一緒に生活してました。連れて帰った24、25人のうち、働く者はほんの一部。あとはみんな遊びたいし金は欲しいし、行く所ないからここで寝起きするという程度で、中には前科者もありました。こういう状況でまた1人連れて帰ったら、みんな飢え死にするかわからん。私自身は栄養失調になつて死んだつてかわわない。だけど、やつぱり傍の者がかわいそうやしと思つて、私の人間心でためらうことはありません。

なのに「何を言うとする。向こうがせっかく来たがつてるのに、連れて帰れ」と、もう命令ですよ。霊界人が金を持ってきてくれるわけじゃなし、米ひとつ作ってくれるんじゃない。でも霊界人の命令ならしょうがない、連れて帰る。

## 我よりも他人に食わす

その時の生活は百姓一本。遊んで暮らす者がたくさん一緒にあって、私なんか朝星夕星で働かなきゃいけない。だんだん身体がやせてくる、骨と皮だけになる、栄養失調みたいになる。日曜日曜には大阪の街頭へ出て、マイクもなしで怒鳴る。腹減つて大きな声でしゃべつたら、スパーツスパーツとね、声が抜けますよ。

もしこのまま自分が栄養失調で命をなくしたら、霊界人の言う「お前は宗教でいけ」は嘘だ。だけど自分の生まれながらに持っている宿命が、自分の考えている宗教的な行き方をするのであれば、決して命はなくなるまいだろう。言われるとおりに、素直に続けてみよう。

食う物がなくても人が来るうちは飯も食わす。我が食わんでも他人に食わす。それで命が尽きれば、自分はそこまで。お化けか何かにだまされて、自分の一生を台無しにしただけのこと。それを承

知のうえでやる以上、自分は満足や。今日、死ぬのも結構だ。明日、死ぬのも結構だと。

なんと言いますか、こんなふうに分身に対して厳しく試練してきたんです。それで1人連れて来、2人連れて来、そうしておるうちに、いつのまにかみな家族になつてしまつた。

宗教が自分の使命、本当にそうだと信じてはいませんけれど、いまだにわからないまま60近いこの歳まで生きていますから、やつぱり私には何かしら、そういう役目がふさわしいのかもしれない。

## シラミ取りが毎晩の娯楽

先ほど水津さん(※共同講演者の水津彦雄氏。紫陽花邑を取り上げた書籍『日本のユートピア』著者。前号も参照)の話にあった共同体、例えば心境部落(※1940年に現奈良県宇陀市で発足。天理教の布教師だった尾崎増太郎が創始)の場合は大和同土ですので、私もよく知っております。

村八分に遭つた百姓の人たちが、山間部の農家を改良して、4家族でなんとか共同生活をしよう。そしてみんなを見返してやろうじゃないか。これが出発点だつたと聞いています。

ところが私の場合は何もありません。大阪へ街頭布教に行った、すつてんてんの子ども拾つてくる、大人拾つてくる、前科者連れて帰る。連れて帰つた者と暮らしながら、おかげさんで私もシラミ取りの楽しみを覚えました。

吹きさらしの家で毎日寝起きして、電気も昭和27年までございませんでしたし、小さい佃煮のビン拾つてランプ作つてね。ランプと言えはかっこいいけど、油入れたビンに火を灯しただけです。ビンの口はブリキでフタして、フタの穴に布を通

して火をつける。それを小灯ことうみたいなにあちこち置いていました。

そのランプのそばで、脱いだ腹巻を伸ばしてよく見ると、たまにシラミがピツピツと引掛かってる。5匹か10匹取れたら大漁やと言つて、その晩はまた同じ腹巻して寝る。明日の晩もやってみたら、またシラミが付いとる。ああ今日は少なかつた、とかね。

一日の生活を終えた後、暗いランプの屋根裏で、シラミ取りがほんまに毎晩の潤いだった。今ならキャバレー行つたり、赤い灯、青い灯のところでも踊つたりするのが楽しみなかもしれない。でも私の場合はシラミ取つた時のうれしさなの。

ところが虚しい時もありますよ。全然シラミが取れない日もあるんです(会場笑)。取れないとなんとなしに、寂しくなつてきてね。こんな生活をずっと続けていました。

## 「ねばならぬ」ルールはない

土産にシラミはもらいましたけれども、いろんな人が裸一貫でやつて来て、個人の所帯の中へ無一物のまま入り込んできた。そういう流れが今もあります。

「財布一つ釜一つ」と言えば、共同体の定義みたいに聞こえますが、私の場合は初めにすつてんてんが来る。共同体はこうあるべきとか、財布一つでなくちゃいけないとか、一つの釜でいこうとか、何もありません。いや応なしで財布一つ釜一つになつてしまつた。私の元に寄ってくる人は、言わば親にすぎる子どものようなもので、頼られた私がみな親代わりになつて……といったいきさつが紫陽花邑の源流なんです。

この紫陽花邑に当初は孤兒もおれば浮浪兒もお



る、前科者もおる、もういろんな者がおりました。現在来ておられる方の中に、そういった事情がある者はもうおりません。

終戦直後はオムツ巻いておった赤ん坊も、17、18になってくりゃあ、やっぱり化粧もしてね。恥も知り、また知識も付いてと変化していく。

毛虫が美しいチヨウになるようなもので、まあ昔は汚かっただろうと思います。そんな者たちが羽化する。26年の歳月を経る中で、人に好かれる形へ変わった。だけど実体は一緒ですよ。

そのように変わっていった今日まで、私が実際に歩んできた足跡を、紫陽花邑の住人たちはずっと見てきている。ですから紫陽花邑には、こういう精神でやらなければならぬ、という規制は何もございません。昔を振り返って、大勢いらっしゃる前でこんな話するの、私もちょっと何か変な感じでもありません。

霊界人と現界人が一緒の世界で生活している私みたいな者はちょっと別だとしても、本当はあなたたちだって私と同じ世界におります。あなたたちが知らないだけであって。

霊界とか、極楽とか地獄とか、日常とか離れた別世界じゃない。一個の自分の肉体を流れる血液の中に、五百年前、千年前の先祖さんの物質が宿っている。そして物質だけじゃなく、いわゆる心を今も受け継いでいるはずですよ。たとえ意識はしにくくても、かすかに何かがある。だから先祖さんを仏壇にお祭りする、あるいは氏神さんにお参りする。そういう行為につながっていくと思うんです。

## 天地自然と交流する味

結局、私の言わんとするのは土を握ってね、自

然からくる味を知ることです。

人間の肉体が放射しておる靈波長、念と言いますか、これが天地自然と常に交流している。エネルギーみたいなものが一人一人の肉体にあつて、土にもある、空にもある、木にもある。これは、物質だと私は考えていますかね。

私は毎月この『すさのお』という新聞を発行して、ちよいちよい、そんな気違いじみたことを書いてます。これは私が生きてる時の手形であつて、別に信じてほしいわけじゃありません。

今の科学の進み方を私がずっと見ていますと、50年後とか100年後に、靈波長をキャッチする何かの機械がきつと発明される。その場合、私の書き残したこの気違いじみたことを、科学的に裏付けてくれる時代が来るはずですよ。

しかし今の時点では無理なので、せめて私なりに、いちおうわかっている程度のは、できるだけわかりやすく伝えておきたいんです。

ただ、後世の者は教えの字面をスラーツと追つた程度の認識で、よくケンカを始めてしまう。現在の各宗派に見られるとおり、教えの捉え方が原因で、いわゆる部派分裂も起こる。宗祖が余計なこと書かなかつたら、そもそも対立闘争は起こらんだらうし、私もこんなこと書いておくと、ケンカの種を残すんじゃないかとも思うんやけれど。

まあ、こんなの書いておいても、科学はだんだん進歩していくわけです。今の私という生命体に入っておる靈的な波長を捉える機械さえ発明されましたら、それを通じて後世の者に私なりの説明がまたできるでしょう。私の肉体が減んだ後であっても。

今日死んだって、屏風びょうぶのもう一つ向こう側へ行くだけのことですし、死ぬとか、あるいは生まれることに対して、案外私は無関心なんです。

## 差別はなく区別があるだけ

幸い私は建設的な仕事のお役目でございますが、仮に人を殺す宿命で生まれていたら、私みたいに単純な人間は、あるいは実際に人殺しをするかもしれません。

血盟団の井上日召という人をご存じかと思えます。昔、私が東京の大久保におる時分、よく仕事を手伝ってくれた方です。歳はだいぶ開いていますが、お互いに通ずるものがありまして、非常に心安い間柄でございました。

この井上先生も、いわゆる霊界人と関係ある世界に生きていて、俺の仕事は破壊屋だ、人殺しが天分だとおっしゃる。善悪を超越して、嫌でも自分がやらなきゃならないのだと。

私といつも一緒におりましたけれど、私を建設の役目だから血盟団の人たちとは絶対に付き合っちゃいけないと言って、そのけじめはハッキリつけていました。自分の仕事の仲間入りをさせるつもりはね、あの方は全然ありませんでした。

まあ、私は破壊役に回るのか、建設役に回るのか、自分ではわかりませんが、今日までのなりゆきを見たら、ああ、ええ役目に回って結構やったなと思う。もし井上さんみたいに破壊の役目へ回されたって、これはもうしょうがないしね。

顔の皮も皮なら、ケツの皮もやっぱり皮だし、足の裏の皮も皮や。顔の皮でも結構、ケツの皮でも結構、足の裏の皮でも結構。口の中の皮でも結構だ。だけど、肉体を全体として見た場合に、一つも皮には差別がない。差別はないけれども、部分的な役目において区別がある。

人間は一人一人、みんな個人差を持って生まれている。お互いに能力差があり、その人なりの役

目がある。肛門の皮なんか大事な皮で、これにはこれの役目がある。顔の皮を肛門へ持っていつても役に立ちません。足の裏の皮だって一緒ですよ。まあ、こういう見方が「神ながら」なんです。それが、ぼちぼち紫陽花邑の精神と言えは精神源流と言えば源流ですね。

## 紫陽花邑を倒すのも自由

人は誰でもお役目を持って生まれてきた以上、私はその人なりの自由をすべて認めます。もし紫陽花邑の中に「紫陽花邑を倒せ」とか「こんなもの碎いてしまえ」と言う者がおつても、私はかえってその人を大事にします。みんなに嫌われまからぬ。だけど、私が死んだ後は知りませんよ。私の家族は50人ほど今おります。その中に「私は大倭教の信者です」と言う者は、おそらく1人もいないでしょう。仏教の人がおり、キリスト教の人がおり、創価学会の人もおります。みな財布一つの家族の中におりますが、私は各人の信仰を絶対に規制しません。

私の信仰なんか既成宗教の範疇で分類すると、形のうえで古神道、古義神道と言いますか。仏教渡来より以前の、日本の神ながらをもって宗教と言っているだけで、古代人の信仰です。

なのに、念仏を唱える人も、お寺さんの息子さんも娘さんも、いろんな信仰を持つ者が私の釜一つ財布一つの家族に入ってくる。それが私は非常にうれいんです。

仮に、紫陽花邑が大倭教の信者のみの集まりであれば、それに関わるのは私の使命、お役目ではないと思います。集団を作る時に、みな気持ちの合う者を集めたいいだらう、とよく考える。でも私はそれ、まったく嫌なんです。

花ひとつとつても、例えば紫陽花邑の山に今たくさんツツジが咲いています。野生の花ばかりで、そのまま、さまざまな色があり、大きさが全部違う、葉も全部違う。これが平戸みたいになんどこを見ても赤い色のツツジだったら、もう見飽きてしまうし、嫌になってくるしね。

あなたたちもそうだと思います。多色彩が調和を取ってこそ、目で見る楽しみがある。私の家族が、柏手打って拝んだり、ナンマンダブツ唱えていてもかまわない。違う者が一緒におつて、いいわけですよ。(次号に続く) 文責・編集部

## 法主日記でたどる東京講演

〈講演前日編〉 4月24日

八時起床する。九時半に房子が来てくれた。日元、志な、お文、森下夫妻、我原、熊田等に見送られ十時三十五分、大倭を立つ。房子は淋しい顔に微笑をもらし先に出た。則之運転、今井苑長、鈴月と自分の四人である。杉山恒さんと房子は十時のバスで宝塚演劇を見に参った。

名神を走る目的で京都に向ったが木津街道へ出た時、熱田神宮からお迎えに参ったので祝園あたりからバックして急遽、笠置から伊賀上野に向う。十一時三十分三重県境を通る。午後一時料金所に入る。

熱田神宮へ一時四十五分、詣る。例の古樟は弘法大師が植えたと伝う、この天狗さんに挨拶をする。二時三十分神地を去り名古屋市内を走り、三時東名高速に入る。五十分浜名湖近鉄レストランで食事する。風景はよい。

四時三十分立つ。その間オイルチェンジをする。五時四十分富士川、ガス多く曇っているが、富

昭和46年5月号『すさのお』より  
谷川雁氏、はじめて大倭へ来る！



東京での余韻もまだ冷めやらぬ5月9日

(⇒) この折の谷川雁氏の「ふんどし一丁に冷奴の神ながらではだめ」は、今も語り継がれる。

士の頭だけ薄き雲間から見える。

七時五分川崎ゲージを出る。三十分目黒雅叙園につく。平山久と二子外数人が既に待っていた。二時間許り予定より遅くなる。熱田へ詣つたためである。

意外にも五時過ぎから谷川雁氏が待っていた。久と待ちくたびれて飲んでいた様子。八時過ぎから会食し、谷川氏との初対面、雑談をする。相沢、島崎、那須、岸田、アキ(※阿木)の諸氏。話は楽しかった。谷川氏は独り喋りながら喜んでいった(⇒参照)。彼等は明日の世話係りの方々である。キブツ協会の人が多かった。十一時一同は帰られた。

玄関脇で谷川氏は則之を呼び出し紫陽花邑で何か?金壺万円を渡していた。

桔梗の間である。鈴月は持参の水枕と枕を出して準備をする。十二時十五分、床に入る。則之と苑長は隣室ばらの間である。明日から部屋換えをされる。フィルムを入れたり準備などし、入浴が三時近かった。鈴月は次で入浴してから衣類等を出して準備を続けていた。四時になった。

# 令和4年1月9日 大倭会主催禊会より 宗教的に向上をはかっていくような場に(2)

拜殿にて、午後2〜5時

## 禊会について考える

▼令和3年『おおやまと』5月号より再掲載

### 禊会についての提案です

コロナウイルスのためこの会も中断を余儀なくされました。

まだ再開の日ははっきりしてはいませんが、再開にあたっては、過去の禊会のあり方にとらわれることなく一つの提案をしたいと思えます。

それは「信じる前に、考えてみたいこと」をテーマの軸として、先ず日聖法主の月次祭などの法話(約30分ほど)の録音を聞いてから、その法話中の「考えてみたい」言葉を選び、話し合いの材料にしてみても如何でしょうか。

また法話から離れて、例えば参加された人の個人的な疑問や悩みを、包み隠さず話し合う場にもしたいです。(杉本)

\*

▼昭和43(1968)年5月11日、すさのお会主催第1回禊会で参加者に手渡されたしおりより(同年5月号『すさのお』第20号掲載)

### みそぎ(禊)とは

…前略… 現在のみそぎは古代から行われていた「みそぎ」から逸脱している。水をかぶり、神にいののがみそぎだと解されているが甚だしい誤りである。「みそぎ」とは「つみそぎ」と「みいずそそぎ」の重なったのを語源としている。「つみ」とは「つつみかくす」ということであるから、「つみそぎ」とは「神の心をつつみかく

している、まが罪をそぐ」ということである。そうすれば「みいず」とは「神のおかけ」ということであるから、「みいずそそぎ」とは「神のおかけがそそがれる」ということである。

こうして、神の心をつつみかくすまが罪をほらい浄め、自然の氣に帰っていくのが「みそぎ」であり、古代では山のせまった川原などで行われた。

\*

▼令和3年6月号『おおやまと』法話より引用

### 霊界の禊

《祭典をしているちようどいま、霊界では禊をやっておるんです。私もうつかりしとったんですが、昔の六月の禊は旧暦だから、今日の禊が新暦の六月でちよつと早いんですが。…略…何千年か前の古代の日本人が…河原で禊をやっておる。…白い着物を着て座っている人もおれば禊一つの素裸の人、白い鉢巻きを締めている人もいます。私が見ていると入神状態になっておるんです、そして自分の枉罪を口からみな出すんですね。…心が宇宙の氣と一体になるんですね。そうすると聞こえたらかっこ悪いと思って抵抗しても、勝手に口がぼんぼんと恥さらしを言うてしまう。…

理性がどんなに抵抗しても、何回も生まれ変わって来た本当の靈魂は宇宙の神さんと通じますから、この罪汚れはすべて祓われないかと奥の方から言わしてきよるねん。それにまた理性が抵抗して河原ではみんな暴れてひっくり返ってドタバタやっとなる。そんな時はいま流に言えば自律神経なんか盛んに働く。そうすると肉体中の汚物やもろもろが毛穴から噴き出てきて、へばりつく糊

のような熱湯みたいな汗をかく。…言うてしまわすつとすることから川の中に駆け込んで身体をざあつと洗う、これが本当の禊です。…

今日、こういう禊の相を出されるといふことは、大倭の全ての人達や大倭と縁を結んでいる何万何億の霊界人へ、現界の私の口を通して霊波長を出せという暗示だと思つて禊の話をしています。》

## 現界と霊界がリンクしている

林修三 禊会は語る場所でもあるけれど、聞く場所でもあるんじゃないかと思うんですね。だから、是非聞かせて下さい。

大倭印刷のカレンダーの1月の言葉は「心を白紙にして聞けば相手の気持が自分によく伝わってくる。感情をもつて聞かないようにしましょう」でしたね(※元は法主さんの言葉)。

加納暉韜 私は臨済宗(禅宗の一派)なのですが仏教各派それぞれに特徴があります。こちら大倭は神道であるにもかかわらず法主さんは日蓮について書かれていたので驚きました。日蓮には仏教では珍しく他宗排斥の傾向が見受けられます。そんなところから日蓮には攻撃的な印象があります。が、実際には穏やかな方だったのじゃないかと思つています。

最近出張で関東の方に行くことが多く、日蓮出家の清澄寺(千葉県)や晩年を過ごした身延山に行く機会がありました。身延山は法主さんが日蓮を思ふで訪ねておられます。法主さんの日聖という名前は日蓮と何かつながりがあったのでしょうか。林 霊界におられる日蓮さん、また聖徳太子とのつながりをよく言っておられますよね。加納 霊統というものがあつたということですか。



ね。

山田照久 法華経を読むことがあるんですが、法主さんの言葉で、ああそういう意味やったんかと思ふことがある。法主さんは何か簡単な言葉でおっしゃるんですけど、法華経がベースになってすごく中味が深いと感じることがあります。

岸野春子 あ、それを聞いて思い出したことがある。以前、アメリカでアーミッシュの小学校で銃撃事件があつて子供たちが亡くなったという事件がありましたよね。年上の少女が「私から撃つて」と言ったり、娘を亡くした父親が「私たちは容疑者家族のためにも祈っている」と言っただけです。

それに関する本がアメリカではスーパーでも売られるほどベストセラーになったと、矢部顕さんから聞きました(※平成18年11月号『とおやまと』の「蹄の音の響く村から」参照)。その日本語訳を読んでみたんですが、これは法主さんやったら「人を恨んだらあかんぞ」と簡単に言われたのではないかと思つたものです。

山田 恨みは連鎖するんですね。精緻に見ていくと、何代にもわたる過去世での関係もあるし複雑なんですよ。

現界でいくら仲良くしようと思つても、霊界で先祖さん同士で恨みが残っている状態では、次の代に出てきてやりかえす、やはりうまくいかないでしょうね。兄弟でも何か分からんけど仲悪いというのがあるのかもしれない。現界だけ見ていると、理不尽なことを言うてはって、明らかにその人がおかしいんですけど、前の代でやられているから現界でやり返しているんかなあと見えることがある。だから結局、自分のことも何代も前から清算しないといけないのかなあと感じたり……。

岸野 平和、平和と皆言うけれど、そういうものを解消していくのは簡単ではないよ、何百年もかかるよかも言うてはるわね。でも必ず調和する方に向かっているとも言われている。

山田 現界と霊界がリンクしている……。

岸野 大倭では源氏と平家の話をよく聞きますね。浄化のために集まつて来てるって。

杉本順一 特別な感じではなく、ごく普通の話としてやねん。そもそも法主さんと鈴月かあさんが平家と源氏で敵同士や。そやからかあさんが、法主さんの顔を見ると、何か知らんけど腹立つねん」と言わはんねん。法主さんは、「お互いにそれ分かつてるんや」とニターツと笑つてはつたけど。

岸野 先祖が源氏とか平家とか言われたことがある人は？

林 ボクは言われたことないです。

杉本 知らん。少なくともボクが言われたことはない。

高橋良美 源氏が平家を連れてきたって、最初に法主さんに会つた時言われました。暎子さんが源氏で、ボクが平家は平家でも平将門の旗頭の一人だったと。

林 旗頭だったと言われている人は、大倭関係で他にもおられるんですね。

岸野 私は平家だと言われた。へー。(笑)

加納 法主さんに言われたのですか。

岸野 母方の実家は叔母が婿養子をとつて継いでいたのですが、次々と妙な死に方をして従弟たちが孤児になってしまった。母親が法主さんに相談してほしいと手紙で言ってきた。迷信深い母親で、私はあまり相手にしたくなかつた。けどまあ一応伺つてみることにしたら、法主さんは真面目に答えてくれたんです。「先祖が霊界で浮かばれていない、平家の公達だ」って。

私は大倭に来て二十年も経つてたんですよ。あ、法主さんは分かつてはつたのかもかもしれないと、思ひ出す言葉があつたし、「どうしてもっと早く言つてくれなかつたのですか」と言うて、「時機がある」とのことでした。ちょうど平家滅亡八百年で何かと催しがあつたような年でした。でも、法主さんの言葉以外に証拠なんてありません。家柄もなく金持ちでもないただの百姓でしたし。

法主さんに鎮めて頂いて、私が祀つてます。歴史上の平家についても少しは迎りましたが、それが問題ではないと考えるようになりました。何の功もないのに、平家に生まれたというだけで栄耀栄華をみた、驕つたことを霊界で苦しんでるんかなあと。

先祖さんは、自分の肉体の細胞の中にと、法主さんは言われます。今流に言えばDNAですね。結局、自分自身が真面目に生きるということと表裏で供養になるのだというところに思い至りました。一生かかる。

山田 公達なんて言つたら良い世界にいてはるみたいやけど、死に物狂いの権力闘争があつたでしょうね。戦になれば上に行けば行くほど相手を叩き潰してやつぱり勝たなあかん。部下の人生もまき込むし。

岸野 霊界で浮かばれてないって想像がつかんと、法主さんに雑談のように言ったことがありますが。その時はまた大倭安宿死での仕事関係のやりとりで、私が法主さんにまあ捨て台詞みたいなことを言つたりして、ひどく後味が悪かつた、もう真つ黒のどろどろした気持。

しばらく後に、あ、あれは先祖さんの苦しみを味わせてくれたのかなと。ふと自分で思つただけですよ。霊界のことは分かりません。(つづく)

# 寸 莎

第147回

大倉 ひろ枝さん



鬼からほとけ

「神倭加茂津日女命」。

庭市美甘。田中家（大倉ひろ枝さん実家）と大倭のご縁は、千年以上前出雲との政略結婚を忌避し、出雲街道沿いにあるこの地で自死された、大和の美しい姫（加茂氏）の古墳上に田中家が居を構えた事に始まる。

昭和25年、ひろ枝さんは、村会議員をされていた田中朝晴、一三三の間に生まれた3人姉弟の次女として誕生。姉は大倭では言わずと知れたあじさいの箱の活動に尽力された湯浅晴子さん。45年前、霊感体質でつらい状況が続いた一三三さんの事を晴子さんは自宅の隣人、且田容子さんに相談した事で法主様にご縁を頂き、法主様は直接美甘に姫のお社を持っていかれた。現在も祭典は大倭の月次祭に合わせて行われている。

「最初にお会いした時の法主様の

眼光は鋭くて、特に、禊会で憑依している人を見る時の目がものすごく鋭く、何か見透かされそうで思わず目を伏せてしまうような、カッとした目で見ておられた。そう感じた法主様に対して20代のひろ枝さんは「霊界はホラー映画と一緒にですか？」と質問するので、「母は横でヒヤヒヤしたみたい」と笑う。

林野が90%を占める美甘村での暮らしは、「子供の頃は家の用事をする事でいろんな事を習いました。田んぼの手伝いも、田の畔に姉が穴をあけて、私が大豆の種を入れ弟の久士がふさいでいく。母と山に行けば順番に小さい柴の束を背負って皆で帰っていく。母は子供達につらい思いをさせたかと思ってるらしいけど、私達は遊んでる感じでおもしろかった」。

高校を卒業したひろ枝さんは、理科系が好きだった事と、「女性も手

に職を持つ」という母の考えもあり親戚がいる名古屋の衛生技術短期大学に進学。臨床検査技師の国家資格を取得し、昭和46年大阪府守口市の関西医科大学附属病院に就職した。10歳年上の先輩に厳しく指導を受けた半面、遊びも教えてもらった。

ニューアル化が進み、血液検査をはじめ、検査項目だけで何百とあるものの結果を正確に医師にあげていく。仕事で大切な事は「報告・連絡・相談」だという。物事が一か所で滞ると、全てに影響が出て医師の判断を左右する。しかし、「報告しない人もいて、それが4回5回となつてくると怒鳴りつけた」。周囲は、ひろ枝さんが通るだけで緊張するほどピリピリしていたという。患者の命に関わってくるのだ。大きな間違いがあるとマニュアルを一から作り直したり、3か月も眠れない日が続いたり。

シベリアの日本人墓地から帰国すると、眠くてだるくて仕方なく法主様にお尋ねすると、ええ事しはったなあ、と言われた。かの地で亡くなった人達が一緒に日本に帰ってきたんやないですかね」

そんな時、法主様は「腹を立てたらあかんで。大倭の地を踏むだけでええんやで」と言われていたのを思い出す。「皆にいい人になる事ではなく、私の役目はちゃんとした検査部を残す事だと思っていました」

42歳の時、30代で始めたお琴の師匠大倉佐和子さんの父、弘さんと結婚。法主様によって大倭神宮で挙式。河内音頭の師匠として浮音家を率い、大倉水道の経営者であった弘さんは、遅くまで働くひろ枝さんが定年退職するまでの20年間、夕飯を作ってくれたそうだ。

最後の試練は、検査の信用を得るためにISO（国際標準化機構）の認証を、コンサルティング会社を入れず自分達で取得した事だった。退職1年前、ISOの審査員から「いい雰囲気だ検査部ですね」という感想を聞いた。

ひろ枝さんの本格的な試練が始まったのは、本院が枚方へ移転するに伴い、検査部の技師長として責任を担ってからだ。「鬼のような7年」と言われるように、直属の職員だけで約50人を統括する。

「心穏やかに最期を迎えられるように、心の浄化をしながら主人と共に仲良く楽しく暮らしていけたらいいかな。大倭に掃除みそぎに来させてもらいます」（聞き手 李章根）

800床近くある病院では、検査の迅速化、オートメーション化、マ

# あじさい日誌

5月15日 大倭神宮月次祭。

この日は、色々の方がお参りされました。昔法主さんにお世話になったという金澤秀暉・弥生夫妻(明石市)。4月に初めて来られた辻松大輔さん(大津市)の案内で、相神光男(千早赤阪村)・金澤恵子(堺市)・工藤幸子(大津市)・中塚香奈(大津市)・松本一美(枚方市)さんのグループ。そして久しぶりに藤本宏秋さんと出口三平さん。

5月19・20日 教長さん指示の

## 東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

令和4年8月12日(金曜日・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。

正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡ししますが、**密集を避けるため、後日、お越し下さるのはあ**  
**りがたいです。拝殿にお預りしておきます。**

祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

**【注意】 祖霊祭の経木への書き込み受付は**

**7月15日まで。あまり日数がないので、お急ぎ下さるようお願い致します。**

もと東方碑そばの大木をはじめ  
邑内の枝払い作業。

5月23日 大倭大本宮月次祭。

祭主・教長さんのご都合により、参拝者皆の形で祭典が行われました。この日の法話は昭和42年5月23日月次祭より、令和3年5月号『おおやまと』に「天然自然の心から遠ざかって  
いる人類」として掲載分です。  
6月2日 京都府南丹市美山かやぶきの里で行われた「山脈の会」の帰途、岸田哲さんの車で加藤彰彦・晴美夫妻(横浜市)・高橋健一さん(茅ヶ崎市)・大木章弘さん(横浜市)が来邑。初めての目下部洋介さん(横浜

市)も同行。目下部さんは「人は亡くなって終わりなのではなく、一緒に生き続けていること」を確かめるための旅でした」とのこと。大倭会館泊。

6月4日 午後6時から大倭会館で大倭町自治会の役員会。

6月5日 午前9時から大倭墓地の大掃除が行われました。

6月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。

大倭安宿苑では

5月10日 法人成立66周年記念日。式典は今回も中止となりましたが、守護神へのご挨拶は行い、各施設で永年勤続職員表彰及びお祝いメニューの食事。

(菅原園)

5月15日 外出制限の中、公用車を使い2名が奈良市内をドライブしました。

(須加宮寮)

5月22日 久しぶりの法人グラウンド清掃を行いました。

5月26日 単独防災避難訓練で久しぶりに階段移動。

(長曾根寮)

5月10日 (特養) 法人成立記念日を松花堂弁当でお祝い。

5月18日 (デイ) カタツムリやカエル・傘等、梅雨の折り紙。

(茂毛路園)

5月10日 法人成立記念日。お弁当形式の創作料理でした。

(八重垣園)

特に変わりなく過ごしました。

## 表紙写真について

京都府宮津市 藤本宏秋

久美浜湾の南西部に位置する神谷神社(神谷大刀宮)は、丹波道主命を祀る唯一の神社で、道路を挟んで隣接する山裾には、磐座群があります。古代、祭祀の時に神を降ろす依り代であり、巨岩の配置が意図的であることから、太陽や星を信仰していたことが窺えます。夏至の日の出は、兜山の山頂から昇り、その光は磐座の中心になる石に差し込みます。天と地を繋ぐ祈りの場であり、木の実の採取、狩猟、農耕などの最良の時期を知るための天体観測の場でもありました。

ここ数年、大きな磐座がキレイに割れているので、「鬼滅の刃」のコスプレをして記念撮影する姿も多く見られたようですが、私の関心事は「丹波道主命のお墓がどこにあるのか」ということ。拝殿が大明神岬を向いているのが気になる今日この頃です。

## こだまこだま

北海道小樽市 守谷明宏

小樽のショッピングモールにある喜久屋書店という大型店で、『やわらぎの黙示』を売っていました。分類が宗教ではなく、日本思想の棚でした。ちょっと意外で「へえ」と思っ

まいりました。



▼滋賀県大津市 樋口寛美

『おおやまと』4月号の「無統制の統制」と「霊魂は元々この大宇宙の中にすでにあったものなんです」が響きました。ホーキングも「宇宙は完璧な秩序です」と言っています。ホーキングと法主さん、おなじ宇宙を見てはるんや。

## あんない

\*月次祭(大倭神宮)

7月6日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催祝会

7月10日(日) 午後2時より大本宮拝殿にて行います。

※8月の祝会は例年通り大掃除祝ぎです。8月7日(日)でどうぞよろしくお願致します。

\*月次祭(大倭神宮)

7月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大本宮)

7月23日(土) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。